

2016年
12月24日（土）

高知市の天気（もっと詳しく）
現在  6時間後 



記事検索

TOP

高知のニュース

国内・国際

特集・連載

イベント

医療・健康

新着

主要

社会

政治・経済

スポーツ

文化・芸能

教育

環境・科学

訃報

小社会

社説

地域別

参院選2016

ホーム 高知のニュース 社会

2016.12.24 08:41

年の瀬の高知おもちゃ病院 真心で直す“サンタ”たち

 シェア  サイト

クリスマス前の「高知おもちゃ病院」は多忙の中にはあった。高知市と南国市で毎月4回開かれる修理は、この日が2016年のラスト。高知市大原町の高知県教育センター分館に親子など33組が、壊れたおもちゃを携えて来た。おもちゃドクターと称する修理マンの手が、ずらり並んで動き始めた。

「もう人形供養に出そうかとも思ったけど」と依頼者の女性。動かなくなったりしたサンタは浜田直樹さんが修理に当たったツリーも直りそうだ。手練れのドクターが担当アンパンマンのおもちゃと格闘中。「なかなか手ごわい」サンタの服を着た米国製の人形は無事に“完治”午前10時。

依頼者の1組目は高岡郡越知町から来たご一家。2015年のクリスマスに贈られた2歳の長男の宝物、ミニSLが走らなくなった。



サンタの服を着た米国製の人形は無事に“完治”（写真はいずれも高知市大原町の高知県教育センター分館）



「もう人形供養に出そうかとも思ったけど」と依頼者の女性。動かなくなったりしたサンタは浜田直樹さんが修理に当たった

ドクターの1人がちょちょいとつついで、10分で“完治”。「電池の接触不良。おなかが痛かったみたいだねー」と、シャイな男の子に手渡した。

高知市城山町の女性（70）は歌って踊るサンタクロース人形を持ち込んだ。孫が来るイブに毎年飾るが、準備にしてみると、壊れていたという。

若いドクターが服をはぎ、配線やICチップを調べた。「家に持ち帰ってクリスマスソング専用の別のICに変えます。楽曲が変わるかもしれません?」「構いません。お願いします」。サンタは“入院”となった。

高知市北久保の女性（52）の依頼は、小学1年の息子に贈る仮面ライダー1号の変身用ベルト。押し入れに隠している年末のクリスマスプレゼントという。

「息子は今年大きな病気もしたし、よく頑張ったから」と、あこがれの高額レア商品をネットオークションで買ったが、動かないし音も鳴らない。

手練（だ）れのドクターが断線を直し、新しい線を溶接してつなぎ替えると、ベルトの正面が光って回り、さきゅーん！と音。「感激です。廃盤なのでメーカーも対応してくれなくて」とお母さん。赤とシルバーのベルトを腰に巻き、満面のっこりだ。

次は米国製のクリスマスツリー。子ども3人とイブを待つ高知市神田の女性

(43)は「買ってすぐに壊れた」と弱り切っていたが、「電球の交換で直るだろう」と、これまた手練れドクター。

手元のスマートフォンのネット通販サイトで電球を早速注文。「400円かかるけど、いい? (直ったら)家の近くまで持つて行ってあげるよ」

□ □

親切極まりないこのドクターたち、一
体どこのどなたなんでしょう。多忙の作
業中、声をかけられた人のみ紹介しま
す。いずれも高知県中部に在住。



ツリーも直りそうだ。手練れのドクターが担当

武田侃(ただし)さん(69)。営繕担当の元高知市職員。市民病院の洗濯機、ごみ処分場のモーターなど「何でも直す、何でも屋」。

川村勝さん(63)。似顔絵も巧みな元郵便局員。四万十町家地川出身。「子どものころは自分で道具作って、カワウソのそばで遊んでたよ」

谷春雄さん(74)。兵庫県の駐屯地ほかで砲弾の落下地点の計算などをしていた元自衛隊員。おもちゃ病院のリーダー的存在。愛称は「司令官」。

浜田直樹さん(46)。高知市のコンピューターソフト会社勤務。IC系が得意な最若手。ただ今サンタ人形を修理中。

鎌倉正守さん(68)。高知市の兼松エンジニアリングの元製造マン。吸引作業車ならぬ「掃除機の親方」を作っていた。

一さて。

この鎌倉さんがアンパンマンキャラの電子おもちゃを前に、「隠しネジがこんなところに~」「ほかあトランジスタ分からない~」と野村弘さん(73)を呼んだのが、この日12月11日の正午前。「はいはい」と、生真面目な声でやって来たのは「先生」と呼ばれる野村さん。時間のネジを巻き戻そう。



アンパンマンのおもちゃと格闘中。「なかなか手ごわい」

□ □

野村さんは香南市野市町東野の農家に生まれ育った。

長男で、戦時下の昭和18年7月の出生。父親は城山高校の理科系の教師だったが、野村さんが生まれてすぐ日本陸軍に召集され、米軍来攻に備えた沖縄に向けて船舶で移動中、米潜水艦に爆撃された。29歳で戦死。

父の顔は一切知らず、戦後は稻作に励む母の手一つで育った。おもちゃがあるはずもなく、サンタが來ることもなかったが、家には父親が残した工具やテスター、はんだごて、真空管などが残っていた。

「父の部屋を研究室と呼んだ。部品をいろいろ組み立てて、小学生で鉱石ラジオ、中学のころは真空管でラジオを…。夢中で」

東京の四年制大学に進学させてもらった後、卒業後は高知高専の教員となり、電気工学科で教えた。授業に使いたい思いもあって、傍らで自作機器を多くこしらえた。

2015年春、新聞記事で高知おもちゃ病院を知って講習を受け、「経験が役立つのは」と参加した。

「自分でおもちゃを作り、自分で直してきた世代なので。ここに来る子どもには、壊れた物が直り、再び動き出すという喜びを、大人とのつながりの中で感じてほしい」

「今のメンバーは昨春の講習に集まった1期生。メカに強く、勉強熱心なすごいメンバーたち。誇るべき僕の仲間です」

□ □

ドクターたちの顔が紅潮してきた。低い日差しが窓から入る。

「ポケモンのクレーンゲーム」をお母さんと持ってきた土佐市の波介小学校2年、戸梶來夢（らむ）ちゃん（8）は、もう少し直りそうな宝のおもちゃの前で動かない。



「買ってもらったの？」と聞かれる
と、「違う」。「買ってもらったんじゃ
くて。去年サンタさんにももらった」とい
うのだから、そらあ直さないかん、という顔で、岩田正輔（しょうすけ）さん（72）＝
高知市桜井町＝が指先に力を込めた。

岩田さんは高知市出身で遠洋マグロ漁船の元無線通信員。機械いじりが好きで手先が器用。ペンキ塗り職人の経験もある。ドクターの募集記事を見た奥さんに「これはあんたのための仕事や」と言われてスイッチオン。

捨てられたおもちゃのネジやパソコンの基板を人に頼んでは集め、100円ショップで小道具もそろえ、今や「おもちゃ修繕の鬼」となっている。

「この作業の魅力は何ですか？」と聞くと、両耳の横に付けた手を広げて言った。

「直ったときに『にこーっ』ってする子どもたちの顔。あれ見たら、やめれんよ」

□ □

作業はすべてボランティア。無償の心あふれる“サンタクロース”は現在31人。
この日は12体を修繕、残りは入院。「疲れた～電池切れや～」と1人が言って、午後3時に店じまい。

2015年春の開院以来、1年半余で直したおもちゃは、この日ちょうど千体を超えた。

ドクターたちの真心が“修繕”“つなぎ直す”のは、おもちゃだけではないだろう。

「やったー、僕のが直ったー」と叫んだ坊やの声が耳に残った。2017年もご活躍を。